

新しい年を迎えるにあたって  
- 新年の計画は12月中に立てよう -

開倫塾  
塾長 林 明夫

新年までちょうど1か月となりました。開倫塾の塾生、保護者、お世話になっている皆様におかれましては、お元気にお過ごしのこととお慶び申し上げます。ここ何年間かは、開倫塾ニュース送付の文章は高尾初江塾長室室長が担当しておりましたが、今月より私が再び担当させていただきます。「開倫塾ニュース」各ページの「まとめ」は、今まで通り高尾初江塾長室室長が執筆させていただきます。どうかよろしくお願ひ申し上げます。なお、お読みになりやすいように、Q and Aの対話方式で書かせていただきますので、ご了承下さい。

今回の文章は少し長目ですので、色のついたボールペンやラインマーカーを用意して、参考になると思われるところに下線を引いたりマークをしながらお読みになることをお勧めします。

<新年を迎えるにあたっての心構え>

Q：新年を迎えるにあたって、どのような心構えでいたらよいとお考えですか。

A：(林明夫：以下省略)

(1)開倫塾提供のラジオ番組「開倫塾の時間」(CRT栃木放送で毎週土曜日午前9時15分～25分放送。周波数：1062kHz、1530kHz、864kHz。栃木県全域はもちろん、群馬県東部、茨城県西部、つまり開倫塾の校舎のあるところではすべてお聴き頂けます。担当は、塾長の林明夫。一人でマイクに向かい、今年の3月で21年目に入りました。塾生の皆様だけではなく、ラジオによる開倫塾の保護者会とも考えて、毎週1回月曜日の午前9時30分よりその週の放送分を放送局で録音しております。是非、お聴き下さい。)でもお話ししましたが、新年つまり1月1日になってから2008年をどうしようとするのでは、「泥棒を捕まえて縄を緋(な)う(略して「泥縄(どろなわ)」)」つまり事が起こってから慌てて対策を考えるのと同じです。よい計画を立てることは難しく、また、立てた計画を年末まで取り組み続けることも少ないのではないかと思います。

(2)では、どうしたらよいか。私は、新しい年の計画は、新しい年に入ってからではなく年が明ける前に立てた方がよいと考えます。できれば、12月に入ったらその年のことを振り返り、反省もしながら、新年になったらどうしようかをじっくり考え、自分の考えを文章にしておくことをお勧めします。もっと言えば、9月頃から、来年は1年間かけて何をどうしたいかを考え、自分の思いを少しずつ文章にしておくことをお勧めします。

<受験生の心構え>

Q：受験生は、どのような心構えを持ったらいいのですか。

A：(1)「眠る時間以外は机に向かう」くらいのつもりで、生活の大半の時間を受験勉強に使うように心掛けて下さい。受験勉強で大切なのは、自分との闘いに勝つことです。なぜなら、自分と

偏差値の同じくらいの人たちが合格を競うのが受験の実態だからです。受験勉強は、「自分との闘い」と同じです。

そのために大切なことは、次の3つです。

「自律心を持つこと」、つまり自分自身をコントロールして、生活の中心に勉強を置くことが第一。

自分自身をよく見つめて「自覚」を持って勉強すること、つまり自分の得意分野と苦手分野を冷静に把握した上で、得意分野をどんどん伸ばし、苦手分野の克服にエネルギーを集中することが第二。

心と身体の「健康」を保つことが第三。

(2)特に第三の点は大切ですので、少し詳しく説明します。

イライラやストレスをためないように、定期的に、例えば1日に1回は楽しいことをしたり自分にごほうびを与えること。

受験生であっても、夜は12時頃には床に就き、朝は早目に起きて朝ご飯をゆっくり食べ、トイレも余裕を持って済ませ、忘れ物のないように身仕度をした上で、交通事故に遭わないように時間に余裕を持って登校すること。

炭水化物を摂らないと頭の回転がよくなると考えられますので、ご飯やパン、コーンフレークなどを朝食できちんと食べて下さい。便秘がちであると受験勉強どころではありませんので、食物繊維の豊富な野菜を摂るように心掛けて下さい。

インフルエンザに感染したり、風邪をひいたりすると、何日間かは受験勉強を中断せざるを得ません。外から帰ったら、薬用石けんで爪の先も含め手のくるぶしまで2回十分に洗うと同時に、うがいを2～3回十分に行ってウイルスの侵入を防ぐ努力をして下さい。受験生は、身体を冷やして風邪をひかないよう、さまざまな工夫をして下さい。首の回りにスカーフやハンカチを巻いて夜眠ることも、風邪をひきやすい人には有効です。インフルエンザや風邪にかかったと思われたら即刻医師の診断を受けると同時に、無理をせずに身体を休めて早く治す努力をすることも、受験生としては大切な心掛けです。

受験生であってもというよりは、受験生であればあるほど「健康第一」を心掛けて下さい。「健康」とは、「心の健康」と「身体の健康」を意味すると私は考えます。なかなか難しいかもしれませんが、自分で自分をコントロールすること、「自律心」を持って生活することの大切さを、この受験勉強を通して学び身に付けて下さいね。

<働くことの意味を考える>

Q：ところで、塾長は、東京の公立中学校の総合学習の時間に講師としてお話をしているそうですね。

A：はい。社団法人経済同友会(東京)の幹事を仰せつかっている私は、そこからの派遣講師として、学校や教育委員会の要請を受けてお話をさせて頂いております。2学期は、東京都内の7つの公立中学校で授業をしました。

Q：どのような内容が多いのですか。

A：「社会に出て働くとは何か」、「社会に出るにあたって、学校時代に身に付けておいた方がよいことは何か」などをお話するように依頼される場合が多いですね。

私は、「何のために働くか」といえば、2つの理由があると考えます。1つは、「生活できるだけ

の収入を得るため」です。例えば、インドの人々の中には、いくら一所懸命働いても生活できるだけの収入までは得られない人が多いようです。折角働くのであれば、生活できるだけの収入が得られた方がよいのではないかと思います。(ただし、「家計」という考えも大切で、生活を一緒にする家族が協力して生活できるだけの収入を得ることを考えることも大切です。家族が皆で家計を支え合うこと、なかなか大変ではありますが、収入の範囲の中で支出をすることも大切と考えます。)

第2の理由は、「仕事を通して自己実現すること」と私は考えます。「仕事」をするという事は、人様のお役に立つこと、つまりお客様の問題解決に役立つことを意味します。どのような仕事にも、必ず「社会的使命(mission、ミッション)」があります。この仕事は何のためにするのか、自分の仕事の「社会的使命」を十分に理解した上でお客様の問題解決に役立つことが、人様のお役に立つ、社会のためになることになります。

この点について、ソニーの取締役をなさっている橘・フクシマ・咲江さんの「自分の望む人生を自分の日常生活の中で実現させることが自己実現です。日々の生活の中で、日々の仕事の中で、努力して問題をひとつひとつクリアしていくことで人は自己実現していきます。\*」という考えは素晴らしいものです。

( \* 橘・フクシマ・咲江著『人財革命 - あなたが組織に負けない「一流の人材」になるために』祥伝社、2007年8月5日刊より引用)

<「学校での勉強」や「受験勉強」は、世の中に出て役に立つのか、仕事の上で役に立つのか、生きていく上で役に立つのか>

Q:「仕事とは、お客様の問題を解決すること」ですか。なかなか難しそうですね。

A:世の中はどんどん変化しています。FTA(自由貿易協定)やEPA(経済連携協定)が世界各国と結ばれれば結ばれるほど、「人」や「もの」、「お金」の流れは国境を越えて盛んになります。これに、ICT(情報コミュニケーション技術)の発達が加わると、文字通り国境なしの「フラット化された世界」が目の前に現れ出てきます。

お客様は、同じ市や町、県、国内だけでなく、外国にもいらっしゃいます。同時に、同じような仕事をするライバル・競争相手も、国内だけでなく海外にも存在するようになります。日本や海外のお客様の問題を解決するための仕事をするのは自分たちだけではなく、競争相手は国内にも海外にも存在します。

このような中で、「生活するのに十分な収入を得るために」、「仕事を通じて自己実現するために」きちんとした仕事に就くにはどうしたらよいかを考えなければなりません。

Q:どうしたらよいのですか。

A:(1)自分自身で、どのような生き方をするかを考えることが第一。小学生も高学年になったら、中学生ならなおさらのこと、自分はどのような人生を送りたいのか、そのためにはこれからどのような勉強をしたらよいのかを自分の頭で考えることです。高校生、大学生も、自分の生き方や自分の将来のことを真剣に考え、そのためにどのような勉強をしたらよいかを自分の頭で考えて頂きたいと希望します。

(2)その上で、学校での今の勉強や学校生活を大切にしてもらいたいと思います。私の考えでは、学校で今勉強している教科はすべて社会に出て役に立ちます。仕事をする上でも役に立ちます。

皆様の人生にすべて役に立ちます。

(3) 学校生活、つまり入学式、卒業式、始業式、終業式、文化祭、体育祭、自然体験学習、修学旅行などの学校行事、部活動や生徒会活動、学級会活動、いろいろな当番、掃除(特にトイレ掃除)などはすべて、社会に出て、仕事をする上で、皆様の人生の上で役に立ちます。

(4) 特に役立つのが、「早寝、早起き、朝ごはん」などの学校生活を送る上で大切な「規則正しい生活」です。よい仕事をするためには、病気や特別なときを除いて、出勤時間には心も身体も健康な状態で職場に行かなければなりません。そのためには、夜ふかしや睡眠不足、朝食抜きは避けなければなりません。「遅刻」や「欠席」、「早退」、「忘れ物」、「おしゃべり」、「居眠り」などが多ければ、仕事にならないこともあります。だらしないルーズな生活は、仕事だけでなく、生活の上でも事件や事故の原因にもなります。

また、「だらしなさ」が多いと、仕事ができないことも、お客様との約束が守れずに仕事の仲間に迷惑をかけることもあります。言いにくいことですが、「仕事を失う」つまり「失業」、「収入がなくなる」場合も多いと言えます。学校の先生や保護者の皆様が口をすっぱくして、「遅刻」をしないように、「忘れ物」をしないようにと注意してくださるのは、世の中に出たときに困らないようにとの「親心」からです。厳しいもので、大人になると誰も注意をしてくれないのが普通です。

(5) これは、学校で勉強をするときと全く同じですね。学校にいる間に「勉強の仕方」を身に付けておくことも、社会に出て仕事をする上でとても大切です。

仕事には、参考になる文書はありますが、「教科書」はありません。では、どのようにして仕事を身に付けるかといえ、上司や同僚、お客様、ビジネスパートナーの皆様が教えてくださることを、メモ帳に一語も残さずメモをし続け、大切なことは十分に「うんなるほど」と「理解」した上で、「理解」した内容は何も見ないでスラスラ正確に言えるまでにすること。スラスラ言えるようになったら、楷書で正確に書けるようにすること、大切な数字は確実に身に付けること、つまり「定着」をはかること。さらに、「理解」し「定着」したことを「応用すること」、つまり「仕事の上で生かすこと」です。

Q：開倫塾の「理解」「定着」「応用」という「学習の3段階理論」は、学校の勉強や受験勉強だけでなく、社会での生活や仕事の上でも、また人生を過ごす上でも役に立つのですか。

A：はい。その通りです。そう考え、「学習の3段階理論」を皆様にお伝えしてきたつもりです。

この勉強の仕方以外にも、さまざまな勉強のやり方があると思います。皆様には、学校での勉強を通して、自分自身の勉強の方法を少しでも身に付けてもらいたいと希望します。

Q：ではお聞きしますが、受験勉強は社会に出て役に立つのですか。仕事をする上で役に立つのですか。人生に役立つのですか。

A：受験勉強は役に立つ、大いに役立つというのが私の考えです。例えば、高校入試の勉強は、小学校6年間と中学校3年間の義務教育を完全に身に付けるためのよいチャンス、9年間の勉強の総仕上げと考えれば素晴らしいと思うからです。高校入試の勉強を通して、小学校・中学校の9年間で学習した内容で「理解」や「定着」が不十分であったことをもう一度勉強し直し、しっかりと「身に付けて」もらいたいと思います。小学校や中学校で勉強すべき内容は、「基礎学力」中の「基礎学力」です。もっと言えば、「高校」や「大学」、「短期大学」、「専門学校」、「専修学校」、「大学院」で

勉強する内容も、「知識社会」と呼ばれる「現代」では「基礎学力」かもしれません。「勉強の仕方」を身に付けると同時に、上級学校へ進学するためにそれまでの勉強を振り返り完全に身に付ける「受験勉強」は、社会に出て大いに役立つと確信します。

日本人の基礎学力が世界と比べて極めて高いのは、高校入試の勉強を通して、義務教育9年間で学ぶべきことを自分なりに身に付けている人が多いからだと思います。受験勉強は、「イヤイヤ」やるのではなく、義務教育9年間の内容をすべて自分のものにしてから高校に進学するために行うという積極的意味を見つけて行って下さい。

<保護者の皆様へ - 全国学力調査、OECD・PISA調査、新学習指導要領について>

Q：少し難しい内容になりますが、全国学力調査と、12月4日に発表になるOECD(経済協力開発機構)のPISA(15歳時標準学力国際調査)、および新学習指導要領の改訂についてどのようにお考えですか。

A：2000年から3年ごとに行われているOECDのPISA調査で、日本は、2003年度はフィンランドに学力世界一を譲り渡しました。このことが大きな原因となって、全国学力調査が今春行われました。学習指導要領の大幅な改訂も、世界レベルでの学力向上を目指してのものと私には思えてなりません。

つまり、「学習指導要領」を大幅に充実させることにより「学力」を向上させて、その成果を毎年「全国学力調査」で測定。3年ごとに行われるOECDのPISA調査に対処しようと考えていると私には思えます。

Q：OECDのPISA調査の根底に流れる考えは、どのようなものですか。

A：「キー・コンピテンシー(鍵になるような大切な能力)」という考えだと私は思います。その内容は3つです。

道具(知識や情報、技術)を相互作用的に使いこなす能力

異なった集団の中で交流する能力

自律心を持って活動する能力

詳細については、「キー・コンピテンシー - 国際標準の学力とは - 」明石書店 2006 年刊をゆっくりお読み頂きたいのですが、日本や世界がこれから迎えようとしている「知識基盤社会」、「グローバル化社会」、「超少子高齢化社会」を生き抜く上で欠くことのできない基本的能力であると、私は高く評価しています。

私も、少しずつ勉強させて頂きます。皆様とご一緒に、「学力」とは何かを考えていきたいと思えます。

Q：どのような生徒が、「学力」が高いのですか。

A：「生徒が読書に熱心に取り組み、常に読書をするようになれば、優位な地位に立つことができる\*」とされているようです。

(\*「世界の教育改革2、OECD 教育政策分析」明石書店 2006 年 6 月 30 日刊 63 ページより引用)

「読書」の質と量が、「学力」を決める上で大切と私は考えます。本は、ただたくさん読めばよいというわけではなく、何を読めばよいかという「質」が大事です。学校の教科書で紹介されている本や図書館にある本などは、「質」の高い本といえます。「質」の高い本を、じっくりと腰を落ち着けて何回も繰り返し読み込むこと(できれば5~6回)を私はお勧めします。気に入った文章は、「書

き抜き読書ノート」に書き抜くこと。新聞を、小学生は 20 分、中学生は 40 分、高校生は 60 分以上毎日読んで考えることも、読書量を増やすのに役立ちます。

Q : 「学力」が高いことは何を意味するのですか。

A : 「多様な選択肢の中で生きることができる」ことを意味すると私は確信します。この場合の「学力」とは、学校において身に付けるべき「基礎学力」とともに、社会に出てからも学び続けることにより身に付ける「学力」を意味します。これからの「フラット化した世界」では、「学校時代」に「基礎学力」を身に付けた上で、社会に出てからも一生学び続けることにより得られる「学力」が大切といえます。

ドラッカーという経営学の大家は、「教育ある人」とは「勉強し続ける人」と定義しました。足利市出身の書家相田みつを先生の言葉に、「一生勉強、一生青春」があります。

学校でも社会に出てからも勉強し続けることで、よく生きることができる。つまり、多様な選択肢の中で生きられると考えます。

国や社会の成長のためにも、学校でも社会に出てからも勉強し続けて、現代社会に即応した「学力」を身に付けた人々を育てはぐくむことが求められます。

「キー・コンピテンシー」の 3 つの内容は、未来の教育に向けて示唆に富む内容と私は考えます。

長い文章になり恐縮ですが、私が最近考えている内容を久しぶりに述べさせて頂きました。長い文章をお読み頂き、感謝申し上げます。

皆様よいお年をお迎え下さい。